

秋田の工芸 樺細工と紫塗の再評価 — 博覧会との接触という視点から —

齊藤 洋子*

1 明治初期博覧会の概要

開国後の明治期、近代化推進に大きな役割を果たした政策の一つに博覧会事業があった。国内の産業発展、輸出の促進、国威発揚を目的として、明治政府が主導した(國2010)。

博覧会は、産業革命の先進地であるイギリスやフランスで19世紀にはじまった。海外の国々において博覧会は、最新の技術や世界中の物産が一堂に集められて展示される機会であり、新しい生活文化のあり方を人々に伝播する場でもあった。

一方、明治期日本において博覧会の捉え方は少し違っていた。開国時に欧米諸国の軍事力と最先端の科学技術を目の当たりにした明治政府は、欧米列強に負けない国づくりを目指し殖産興業政策を推し進めた。その政策の内の一つが博覧会への参加であった。

日本が初めて公式に参加したのは、明治6年ウィーン万国博覧会である。日本の出品物は好評を博し、陶磁器、銅器、漆器などの工芸品、織物等が数多く受賞した。会期終了後も日本製品に対する貿易の引き合いが相次いだことから、国の荣誉をあげ輸出を拡大するという明治政府の目的は果たされたといえる。

その後、評判の高かった工芸品は、輸出品として発展させるため、見直しや改良が模索された。そこで、国内の職人同士が技術や品質を競う場として、初代内務卿大久保利通の提案により内国勸業博覧会が実施された。内国勸業博覧会は、万国博覧会に倣った国内博覧会であり、次なる万国博覧会に向けた前哨戦ともいえるものだった。同博覧会は5回まで開催され、日本の産業振興に大きく寄与した。

2 本論の目的

明治初期における博覧会参加という国内の大きな

動きは、当然本県にも及んでいる。秋田の工芸についても例外ではない。そこで当館工芸部門では、令和2年4月から、博覧会と密接に結びついた秋田の工芸品を対象に調査を行ってきた。主に国内外様々な博覧会の出品記録や公文書などの文献調査(註1)、産地で保存している江戸期から明治期にかけて作られた工芸品を実見する資料調査を行った。また、博覧会へ出品記録をもつ秋田の工芸品を抽出・リスト化し(末尾の別表1参照)、これまで研究されてきた産地の歴史や現存資料と照らし合わせた。すると、多数の県内工芸職人や工房が博覧会に出品・受賞しており、博覧会出品を契機とすることで産地が様々な反応を示していたことが判明した。その一つの例として、本誌48号では能代春慶に焦点を当て報告している。能代春慶は、秋田県工芸分野の中で先駆けてウィーン万博に出品しており、その後、海外の需要に応える形で器形を変化させた(齊藤2022)。秋田の工芸家たちが国内外の博覧会と接触する様子は、令和6年4月27日(土)～6月30日(日)に当館で開催した企画展『美の交差点—博覧会とあきたの工芸—』で紹介した(図1)。本稿では、展示で紹介したものの中から樺細工、紫塗を取り上げ、博覧会が産地に与えた影響という側面から、秋田の工芸について再考察するものである。



*秋田県立博物館

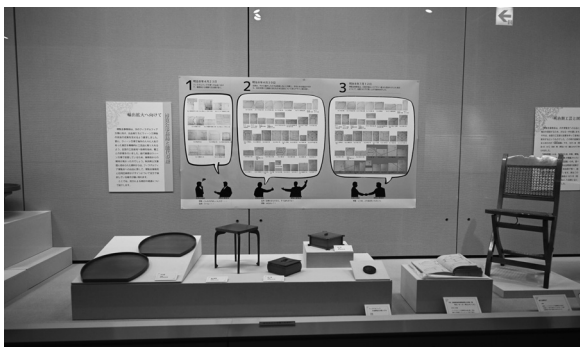
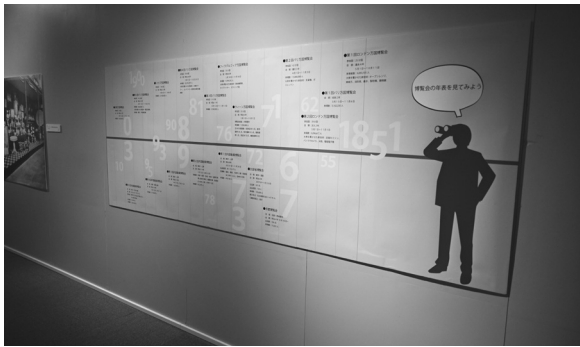


図1 令和6年度企画展「美の交差点ー博覧会とあきたの工芸ー」展示風景

3 博覧会と秋田の工芸～樺細工～ (1) 阿仁樺細工

①概要

樺細工は秋田の伝統工芸品の一つで、経済産業大臣によって指定された、国の伝統工芸品であ

る。現在では産地の規模が大きいため、樺細工といえば角館の名が知られている。しかし、秋田の樺細工の発生地は、旧下小阿仁村鎌沢（現北秋田市）である。遅くとも江戸時代中期には、ここで樺細工が始まっていたと考えられている（註2）。技術は、代々神職であった御所野家によって伝えられてきた。御所野家は、熊野修験系の神職として、京都方面から移住したといわれている（秋田県1962）。主に胴乱（きざみたばこの葉を入れる携帯用保存容器）や巻煙草入れを多く生産した。阿仁胴乱は馬が踏んでもつぶれぬと評判で、その堅牢さが売りであった。

御所野家の樺細工は元々一子相伝の技術であったが、産業縮小を懸念した13代宥俊（-1799）によって角館へ、また16代御所野金也（1821-1884）によって大館へ技術が伝播した（秋田県1962）（図2）。

その後も胴乱を中心に生産は続けられたが、19代御処野忠（1911-1997）を最後にその技術は途絶えてしまった。現在では、大館樺細工職人の小笠原豊氏を招いて、地域住民が技術を学び、伝承の道を模索している。

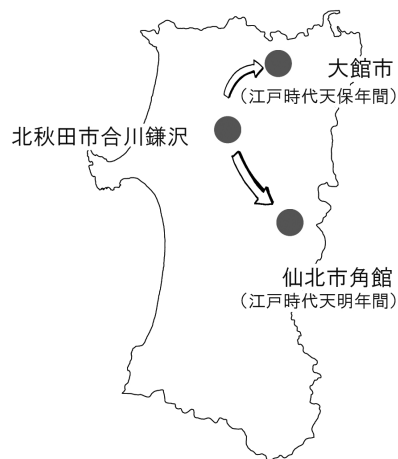


図2 秋田県樺細工の技術伝播の経路

②博覧会との関わり

阿仁樺細工が博覧会に出品され始めたのは、伝播先の角館よりも遅く、明治36年の第5回内国勸業博覧会からである。出品目録には、御所野春成、御所野要蔵（1849-1917）、御所野秀治（1881-1959）、大蔵幸蔵、計4名の職人の名がみえる（別表1）。博覧会への出品作品ではないが、御所野要蔵が作った胴乱は、当館でも所蔵している（図

3)。飾り気のない素朴な佇まいだが、内部の桐皮を厚くとり、馬に踏まれてもつぶれないという売り文句がうなずけるほど強固な作りである。要蔵の胴乱は、他に追随をゆるさぬ製品で、関東方面より注文が殺到するほど当時人気があったという(合川町郷土史編纂委員会1966)。要蔵が第5回内国勸業博覧会に出品した作品は、箸、茶箕、台付菓子重、巻蓆入箱、中折巻蓆入、カブセ蓋巻蓆入、角形置蓆入、丸形置蓆入、黒皮煙管筒、黒皮下ケ煙草入、霜降皮煙管筒、霜降皮下ケ煙草入で、出品目録にある他の3人よりも種類が多い。また、阿仁でそれまで作られていた煙草入、キセル入等の喫煙関連の商品だけでなく、箸や箕、菓子重など木地に樺を貼る新しい工法の商品も手がけるなど、博覧会の出品に挑戦的な姿勢であったことがわかる。

③昭和期の阿仁樺細工

御所野家には、昭和期に販売された樺細工の記録が残されている(図4)。帳簿には、どこに何を販売したかが詳細に記録されており(別表2)、胴乱や煙草入れなどが品質によって上中並に分けられていたこと、壊れた物の修理を請け負っていたこと、近隣だけでなく樺太や山形、福島など遠方からの注文があったことなどがわかる。また、煙草入れ、胴乱などの注文が多くみられ、江戸期から変わらず主力商品であったことも見逃せない。江戸期に評価された、堅牢性という産地の強みを維持し続けていた。他にもシツリ箱(註3)の注文も受けており、明治期博覧会出品にあたり取り入れていた工法にも引き続き取り組んでいたようだ。このように帳簿から、博覧会出品後における樺細工生産の様子を窺い知ることができる。

(2) 角館樺細工

①発生と発展

角館の樺細工は、江戸時代の天明年間(1781～1789)に藤村彦六という武士によって、阿仁地方から伝えられたとされている(秋田県1962)。角館には秋田藩主佐竹氏の分家、北家が居を構えており、樺細工を下級武士の内職として奨励した。秋田県史、角館誌によると以下のような記録がある。

- ・1801年 南部方面へ移出
- ・1803年 土崎湊沖出物中に桜皮胴乱
- ・1805年 江戸の佐竹老岐守から注文
- ・1814年 秋田藩主佐竹義和から北家義文へ注文
- ・1830年 渋江和光から角館に注文

北家の保護の元、技術移入からわずか数十年で順調に販路を得、胴乱と印籠を主軸に樺細工が藩内特産品としての地位を確立した様子が窺える。

②江戸期の角館樺細工

a) 江戸期の印籠

角館樺細工と博覧会の接触について述べる前に、阿仁地方から伝播して間もなくの頃製作されたものについて確認したい。江戸期に製作された樺細工の現存資料は少ないが、数点が仙北市にある角館樺細工伝承館で保管されていた。

まず一つ目は、角館樺細工の祖、藤村彦六が製作したといわれている印籠(図5)である。目なし樺という節模様のない無地皮の外筒が、表は瓢箪型に、裏が四角形にそれぞれくり抜かれ、中から銀系皮(註4)の三段組印籠が覗いて見える。窓から覗いた風景画のように、奥行感のある装飾的なつくりになっている。

二つ目は北家7代佐竹義文に献上した印籠である(鈴木1982)。江戸期の角館樺細工創始期に活躍した一人、石黒勘左衛門がつくった(図6)。藤村の作品同様に無地皮を外筒に使い、くり抜きの細工が施されている。中の印籠部分は4段組で、銀皮の模様を強調するように金箔が施されている。印籠外側の紐を通す部分には細い若竹が接着されており、立体感が演出されている。若竹の端には鹿角が嵌められ、細部までこだわりをみせる。石黒は、藤村彦六の高弟ではないかともいわれている人物である。

三つ目は、吉成市左衛門(-1893)がつくった、「小判入」である(図7)。形も小判型で、中には「金銀入」と墨書されている。蓋は中央がすこし膨らみ、皮は三枚貼り、中央に磨かれた皮を配置し、両側にはちらし皮を使った貼り分けがされている。更に内側の杉材を漆で拭いて光沢を出すなど、吉成の創作性は極めて自由である。

江戸期に製作された樺細工3点には共通点がある。作品に何種類もの皮を使っていることである。

江戸期には主に無地皮、銀系皮、霜降樺（註5）などの樺が存在していた。それらの樺を駆使し、藤村と石黒は部品ごとに違う種類の樺を貼ることで質感の違いを生み出し、吉成は带状に貼り分けることで装飾性を高めていた。つまり、樺模様を装飾文様として印籠のデザインに取り入れていたのだ。特に吉成の製作した「小判入」は、木型に合わせて芯をつくり、その上に樺を貼り付けて筒状のものを作る「型もの」と呼ばれる工法で作ら

れているが、蓋の表面だけは、木地の上に膠で樺を貼り付ける「木地もの」と呼ばれる工法で作られている。「木地もの」は明治期から本格的に登場した工法であり、吉成の製造方法は実験的な取り組みだったといえる。以上のことから、江戸期の角館樺細工は、阿仁地方からの技術伝播後すでに樺の模様を大胆に使うなど美観を重視し、更に樺を貼り分けるという創作性もみせていた。美観への意識の高さは、印籠に桜皮だけでなく、白鳥



図3 「胴乱」御所野要蔵 作（当館蔵）



図4 御所野家に残された帳簿（御処野薫氏蔵）



図5 印籠「鞆入三段印籠」 伝 藤村彦六 作（樺細工伝承館蔵）
左：表側 中：印籠部分 右：裏側

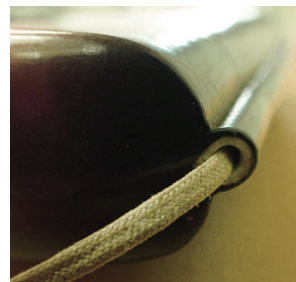
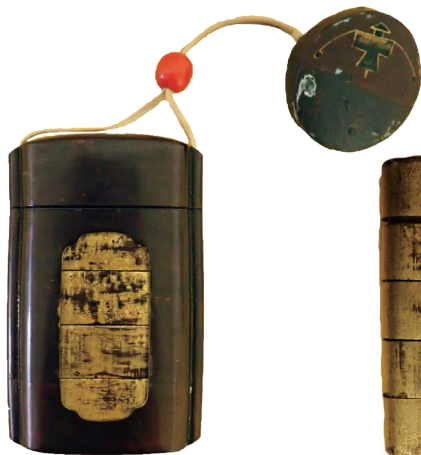


図6 印籠「木爪型五段印籠」 石黒勘左工門 作（樺細工伝承館蔵）
左：表側 中：印籠部分 右：紐通し部分の鹿角



図7 「金銀入」吉成市左衛門 作（樺細工伝承館蔵）
左：外側 右：箱中の墨書



図8 白鳥脚皮による印籠
（樺細工伝承館蔵）

の脚皮まで使ったことから窺うことができる。秋田県史には江戸期、白鳥の脚皮をなめして土台となる槻皮に貼り付けた印籠（図8）があったことが記載されている。

b) 角館における樺細工製作の背景

角館樺細工が阿仁地方からの伝播後、すぐに個性的な意匠を発展させた背景には、主に二つの要因が考えられる。

一つは、樺細工が北家の奨励を受け、藩主をはじめ相応の需要があったことだ。9代秋田藩主佐竹義和は文化11年3月、7代北家義文に対し、江戸参勤のみやげとして白岩焼と共に樺細工を所望している（秋田県1962）。このことは角館樺細工が、技術伝播後わずか20年ほどで秋田を代表する美術工芸品として認められていたことを示している。藩主義和は特に自分の好みで注文した霜降皮印籠を気に入ったようで、同様のものを津軽候への贈物とするため製作を再度命じるほどであった（鈴木1982）。

角館は、武士や町人が集住する都市的な場で、有閑階級が相応に存在し、絵師も輩出するような土地だった。そうした文化的環境の中で、角館樺細工が洗練の度を深めていったことは、想像に難くない。

二つめに、角館では伝えられた樺細工の技術を秘伝としなかったことである。江戸期において工芸技術の習得は、能代春慶や阿仁の樺細工、白岩焼のように、一子相伝、あるいはきわめて制限した門人のみに伝える習わしであった（「角館誌」編集委員会1967）。しかし角館の場合は違っていた。角館には様々な家臣が混在している。創始者といわれる藤村彦六は佐竹北家家中であるし、吉成市左衛門は佐竹宗家の直臣である。それぞれ所属が

異なる武家であるが、技術が特定の家に独占されることなく共有され、互いの技術向上が促された。

③明治の角館樺細工

a) 問屋と職人

明治以降、角館樺細工が産業として発展する上で重要な役割を担ったのが問屋である。明治初期の頃には仙北郡角館岩瀬町の魚商であった安藤正兵衛、明治20年代頃には同下岩瀬町の長松谷商店（丸亀）、明治40年代以降は藤木伝四郎商店など、それぞれの時期に有力な問屋が台頭した。（宮川2002）問屋は、販売や販路の開拓だけでなく、道具の開発や技術・意匠の改善、技術者への材料供給、生活扶助などを行い、産業に携わる人を支援した。

b) 明治期博覧会への出品記録

樺細工の問屋は、明治初期の早い時期から博覧会事業に参加している。第1回内国勸業博覧会では、岩瀬町の問屋、渡邊萬蔵が刺巻村の田村七郎兵衛が作った樺細工印籠を出品し褒章を受けた。また、第2回内国勸業博覧会（明治14年）では、渡邊萬蔵が角館春慶を、安藤正兵衛が樺細工を出品し（図9）、どちらも褒章を受けた。第5回内国勸業博覧会では、藤木伝四郎と長松谷弟蔵が数々の樺細工を出品し褒賞を受賞し、職人の経徳斐太郎、黒沢清太が個人で出品した。長松谷弟蔵は、問屋長松谷商店（図10）の基礎を作った人物である。経徳斐太郎、黒沢清太は長松谷商店に招致され、樺の磨き方や使用方法などを改良し技術を発展させた職人で、明治中期の頂点に立つ人物といわれている。彼らは、それまでの印籠や眼鏡入れ、煙草入れなどの製品などにとどまらず、シガレットケース、小机、盆、硯箱などを製作した。



図9 第2回内国勸業博覧会褒賞状
(榎細工伝承館蔵)



図10 長松屋商店のガラス製の看板
(榎細工伝承館蔵)

④博覧会に出品された榎細工

次に、現存する明治期の榎細工と記録を照らし合わせながらみていく。

a) 明治初期の榎細工と職人

明治初期の記録に残された職人に、原田信也がいる。四つ耳の印籠を得意とした人物である。原田が製作し、自身で使用したといわれている印籠(図11)は、四隅に筒状の紐通しが接着されている。印籠の中身は、段それぞれに防水のため漆が薄く塗られていて実用的だ。記録によると、明治12～13年頃、原田をはじめとして、かつての士族身分の人々が集まり、榎細工の展覧会を開いて技術を競い合ったといわれている(秋田県1962)。開催されたのは、第2回内国勸業博覧会の前年から前々年とみられる。博覧会を見据えた技術交流会だった可能性があるが、詳しいことはわからない。肝心の第2回内国勸業博覧会では、問屋の安藤正兵衛が榎細工を出品し受賞しているが、出品したのがどんな作品だったのか、その詳細がわからず、原田の作品が含まれていたかも判明しないからだ。唯一わかるのは、当時の報告書に「編製

ノ法未タ熟セスト雖モ色澤稍浄クシテ需要ニ供スルニ足ル頗ル嘉ス可シ」(内国勸業博覧会事務局1882)と記されたように、榎を張る技術については改良の余地があるものの、榎の色艶など榎の選び方に関しては、今後も需要があると評価を受けたことだけである。江戸期から芽生え熟成されていった美観へのこだわりと創意性は、明治期博覧会出品を経て、一層充実していったのだろう。



図11 「四耳印籠」 原田信也 作(榎細工伝承館蔵)
中は漆が塗られ、防水加工が施されている

b) 明治中期の榎細工と職人

明治中期以降になると、技術、工法、道具など各自が創意工夫をみせ、作品は多様化の一途をたどる(榎細工伝承館1982)。第5回内国勸業博覧会には、藤木伝四郎商店が榎製菓子入及巻苧、印籠三段、置煙草入、表皮製、縮緬皮製、茶筆筒、衣桁用、花筒、藤巻筒、節附、柱カクシ、置煙草入、名刺入、総皮製、緒絞玉、箱枕、茶入、中形、菓子重台附箸共、巻煙草入無双形、銀皮製、霜降皮製、巻煙草入、無双総皮製、鰐口形並皮製、船形提煙草入並皮製、東形提煙草入表皮製、小槌形提煙草入表皮製、吠形提煙草入並皮製、置煙草入、会席膳、盆、盆漆フキ上げ、硯箱、状箱、状箱漆フキ上げを出品している。また、長松谷弟蔵(長松谷商店)は茶箕、菓子重、附戸盆、茶筆筒、床柱、柱隠、衣桁用、額面、置煙草入縮緬製、分銅形、並形船形、東形、提ケ巻煙草入船形筒付前蓋用、提ケ巻煙草入細縫、提ケ巻煙草入縮緬皮、煙管筒惣榎巻揚製、巻煙草入無双形裏榎製、巻煙草入無双形銀榎製、巻煙草入磨、巻煙草入無双大形磨、眼鏡入、名刺入を出品した。

長松谷商店の職人であった黒沢清太は、個人で

菓子入盆附、置煙草入星皮製、置煙草入盆付縮緬皮、巻煙草入星皮製、提煙草入筒付き銀皮製、提煙草入樺巻縮緬皮製、鱈口銀皮製、巻煙草入無双形を、また経徳斐太郎（図12）は、菓子入盆付、茶菓子入台、茶菓子入台盆付、花瓶を出品している。

注目すべきは大手問屋、藤木伝四郎商店や長松谷商店が、茶箆筥、額面、床柱、衣桁など、樺を貼る技術を駆使した大型製品を多く博覧会に出品していたことである。実際に角館樺細工伝承館に

は、長松屋商店でかつて販売された商品が現存している。実見すると、茶箆や糸巻、花瓶、菓子器など生活用具から調度品に至るまで、様々なものの上に樺を貼っており、その技術精度は完成されている（図13）。明治期長松谷商店では、江戸期に主流であった印籠や胴乱などの「型もの」に代わる「木地もの」による製品が多く生産され、次第に「木地もの」は博覧会出品の主力製品となっていたことが窺える。



図12 明治期に経徳斐太郎が製作した樺細工（経徳明夫氏蔵）
①、②「煙草入れ」 ③「きざみ苩入れ」 ④苩入れの設計図



図13 長松谷商店で明治期に販売された樺細工
①「糸巻」 ②「茶箆」 ③「煙草入」
④「台付花入れ」 ⑤「煙草入」（樺細工伝承館蔵）

このような樺を木地に貼り付ける「木地もの」を可能にしたのが、黒沢、経徳によって明治30年頃に完成したという大判皮使用法の開発であった(吉成1936)。それまでは、印籠よりも大きい製品を作る際、数枚の樺を接ぎ合わせなければならず不格好な外観になることが課題であった。しかし、大きい面積の樺は継ぎ目を最小限にして作品を完成させることができる。大判皮の技術は作品の大型化を可能にしたことで創作の幅が広がり、博覧会出品作は多様なものへと進化していったのだ。

c) 博覧会による宣伝効果

博覧会に積極的に参加するようになり、問屋は宣伝にも力を入れた。明治42年発行の角館案内には、長松谷商店や藤木伝四郎商店の広告が掲載されており(図14)、優美で高尚などの謳い文句とともに、博覧会の受賞歴が紹介されている。博覧会で賞牌を受賞することは、商品価値を高めることにつながる。そのため、博覧会の出品歴や受賞歴は、積極的に宣材として使われていた。宣伝を携え問屋の売り子が北海道から九州まで販路を拡大させたことにより、角館の樺細工は地方工芸としての価値を高め、躍進につながっていった。

このように問屋と技術者が一体となって博覧会への出品や産業振興に努めたことが、博覧会出品記録や関係資料から窺い知ることができるのである。

d) 博覧会出品作の意匠の伝播

博覧会は、自らの精緻な手技を誇りうる公の場でありながら、輸出品にふさわしい商品や新しい技術を探る見本市でもあった。

能代春慶の職人である石岡庄寿郎は、明治6年ウィーン万国博覧会で評価を受けた後、明治9年フィラデルフィア万国博覧会に出品するにあたり、海外の人々の需要に応じた42点の出品作をデザインしている。図15の香台はそのうちの一つである。石岡のデザインは、明治8年から14年頃にかけて、博覧会事務局が輸出工芸の手本となるよう発行した図案集『温知図録』にも採用されている(齊藤2023)。そして、フィラデルフィア万博でも、石岡は銀牌を受賞した(図16)。石岡のデザインは、問屋にとって先鋭的だったのか、長松

谷商店では、図17のような類似したデザインの花台も製作された。その後も花台は装飾性のあるデザインで木地が挽かれ、金泊が張られるなど、益々美観を重視したつくりに進化していった(図18)。明治初期、立て続けに海外で受賞を勝ち取った能代春慶は、同郷の職人たちにも多大な影響を与えたのだろう。

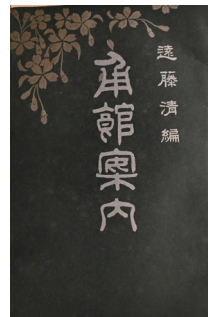


図14 角館案内に掲載された樺細工の宣伝(樺細工伝承館蔵)



図15 「香台」(能代市教育委員会蔵)



図16 石岡庄寿郎が受賞したフィラデルフィア万国博覧会銀牌のメダル(当館蔵)



図17 「猫足花台」(樺細工伝承館蔵)

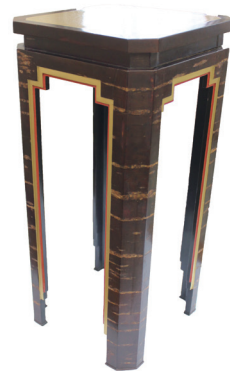


図18 「花台」(樺細工伝承館蔵)

⑤現在の角館樺細工

問屋の藤木伝四郎商店は、明治期以降も博覧会に出品しており、大正4年にはサンフランシスコ万国博覧会で銀賞(図19)を受賞するなど精力的に生産・販売を続けて今に至っている。明治期には、海外輸出拡大という国策のもと博覧会に出品していた工芸品が多くあり、工芸品のデザインも海外の人々の趣向に応じたデザインに目が向けられた。しかし、藤木伝四郎商店代表である三沢知子氏によると、現代において海外で多く売れているのは、日本らしいデザイン、例えば桜の花びらの形を切り抜いた樺を表面に散りばめた茶筒などが多いとのことであった。藤木伝四郎商店では明治期から変わらず、今尚時代のニーズに応じて樺細工を最新の状態に更新していく試みが続けられている(図20)。

展示では、経徳斐太郎の曾孫にあたる伝統工芸士、経徳明夫氏(1947～)の作品も紹介したため、本稿でも紹介する(図21)。明夫氏は、2013年に厚生労働省が認定した現代の名工に選出された。世界遺産白神山地をイメージした作品、「文入れ」(図21)は、ブナと樺を編んで表面に貼り付けた作品である。斐太郎の樺模様を巧みに選り分けるデザイン感覚が明夫氏にも受け継がれている。



図19 サンフランシスコ万国博覧会賞状(藤木伝四郎商店蔵)



図20 藤木伝四郎商店の樺細工
左：小物入れ、トレー、茶筒 右：桜の花びらの茶筒



図21 経徳明夫氏の仕事

左：「文入れ」 世界遺産白神山地をイメージした作品で、ブナと樺を編んで表面に貼り付けている
右：「茶筒」

(3) 大館樺細工

①概要

阿仁の樺細工の技術は、角館の他に大館にも伝播している。江戸時代の天保年間（1830～1843）に、阿仁の樺細工を代々受け継いだ神職である御所野家から、ショウガという人物に伝わったとされる。しかし、一般に元祖とされているのは大館八幡神社の神主、佐々木節三（1878～1944）である。節三が受け継いだ樺細工は、どのような経緯かは定かではないが、生活に困窮した下級士族の間に広まり、内職として技術を身に着ける人が増えていった（秋田県1962）。

大館市常盤木町はかつて秋田藩直属の足軽が居住し、大正期に樺細工を営んでいる店が10軒ほどあった（秋田県1962）。昭和に入ると製造戸数は15軒、従事者は50名に増加し、1年の生産量は喫煙具が7万個、茶器が2万個、その他1万個、合計額5万円ほどの売り上げがあった（大館市1986）。その中でも栗盛商店の栗盛久吉は、木地ものや新しい商品にも挑戦し、機械設備を取り入れて分業を図るなど、大正から昭和にかけて大館樺細工を牽引した。

栗盛久吉の弟子、斉藤吉郎（1925～2009）は美術教員であった妻の影響を受け、切り絵のように樺を切り貼りするなど、これまでにない技法で樺細工に新境地を開いた（図22）。また、現在大館樺細工ただ一人の職人である小笠原豊氏（1962～）は、抽象的な形の花器を製作し、現代美術の中での樺細工の在り方を模索している（図23）。

角館樺細工の場合、販売業者と制作者が分かれており、問屋が需要に即した商品を素案、職人がそれをもとに技術を磨き開発した。しかし、大館では技術者が店舗をもつ形態で営まれており、製作から販売までをすべて行っていた。技術の改良や商品開発は各工房で行われ、次第に独創性あふれる自由な意匠や形が生まれていった。

②大館の樺細工と博覧会

大館の樺細工は、北秋田郡大館町東大館の桜庭久吉が第5回内国勸業博覧会に下ケ煙草入、巻蓆入、珠敷を出品しているが作品が現存しない。出品者である桜庭久吉について現地で調査したが、詳しいことは分からず、この地域の調査について

は今後の課題としたい。



図22 斉藤吉郎の作品（辻淑子氏蔵）



図23 「月下の宴」 小笠原豊氏 作（本人蔵）

4 博覧会と秋田の工芸～紫塗～

(1) 紫塗の概要

紫塗は、大仙市（旧太田町）横沢に住んでいた倉田維一（1875～1929）が創案し、維一の一時代限りで消滅した技術だといわれている（大仙市2007・秋田魁新報社1974）。技法は門外不出で、伊藤良蔵、倉田総助などの弟子達にも伝授されなかったため（大仙市2007）、多くが謎に包まれている。

(2) 博覧会に出品記録のある倉田初蔵

紫塗は維一が発祥とされてきたが、明治36年の第5回内国勸業博覧会には、維一ではなく、父である倉田初蔵の名が記載されている。出品したのは、紫塗菓子箱台付、紫色塗巻煙草入、茶色塗菓子箱台付、鰻茶塗菓子箱台付、鰻茶塗重箱五重二枚蓋台付、茶盆黒堆黒、巻煙草入台付堆刻黒、状箱外革内黒、状箱内外黒とある（別表1）。

初蔵は、漆工を生業としており、樺細工の上に漆で加飾を施す仕事を角館から受注していた。更

に家業の漆工だけにとどまらず、当時角館の名工であった黒澤清太、経徳斐太郎から樺細工を習得するなど(宮川2002)、様々な工芸技術を身につけた。

初蔵の仕事ぶりが垣間見える資料がただ1点だけ、現在仙北市個人宅に残されている(図24)。樺細工に漆を施した菓子器である。名工小野東三が制作したもので、器内部の漆塗りを初蔵が手がけたといわれている。この菓子器には、大正3年の東京博覧会に出品されたが売れ残り、その後角館に買い戻されたという添書があった(図25)。博覧会に出品された品は大体が販売されたり、海外へ輸出されたりして散逸している。その中にあって、実際の博覧会出品作であり、また現存している初蔵の唯一の品であるという点で大変貴重な資料である。器内部の漆だけでなく、蓋の螺鈿まで細工したともいわれ、初蔵は多方面に秀でた人物だったようだ。

さらに、第5回内国勸業博覧会の出品目録を見ると、初蔵は紫塗だけでなく堆黒にも挑戦している。堆黒とは彫漆工芸のことで、木地に黒漆を何層も塗り重ね、厚く塗り固めた漆の層にレリーフ状に文様を彫り込む技法である。制作には相当の時間を要する。特に漆を彫る際には、細心の注意を払わなければならない。彫り間違えると、漆の層を作るところから全部やり直しになってしまう。初蔵が初めて参加した第5回内国勸業博覧会までの間、秋田県において堆黒は出品されていない。このことから、初蔵にとって博覧会は、様々な技法に挑戦し、市場価値を確認する場であったのだろう。

(3) 紫塗の創始について

紫塗について、これまで詳細な研究はされておらず、聞き取り調査などによる市町村史の記述と『秋田人名大辞典』のみが唯一の手がかりであった。しかし『第五回内国勸業博覧会出品目録』に父である初蔵の名前が記載されており、紫塗と名の付く漆器を出品していることが判明した。このことは、2つの可能性を示唆する。一つは、初蔵が紫塗の創始者であったということ、もう一つは維一が師である父初蔵の補佐を受けながら紫塗を開発したということである。いずれにしろ、初蔵

は紫塗の開発に深く関わっていたことには変わりはない。息子の維一は、その技術を更に成熟させ、深く紫色に光る紫塗を残している(図26)。



図24 「月雪華菓子器」
小野東三 作(個人蔵)

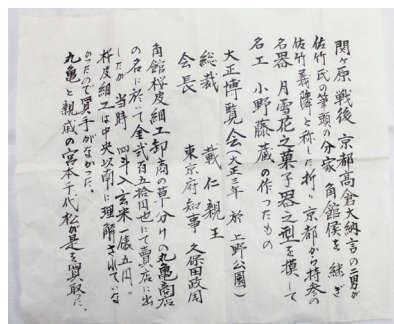


図25 菓子器の中に入っていた添書

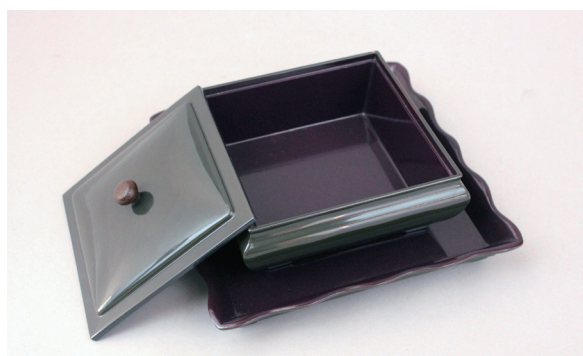


図26 「紫塗菓子器」 倉田維一 作(当館蔵)

おわりに

明治期の国内および海外博覧会への参加は、秋田の工芸品に大きな影響を与えたことが本論で明らかになった。博覧会は、単に製品を展示するだけでなく、技術交流や市場開拓の場としても重要な役割を果たしていた。さらに、博覧会を通じて得られた知見や技術は、産地の工芸品の品質向上にも寄与した。

樺細工に関しては、角館では問屋と職人が一体となって商品開発に努め、阿仁と大館では個人の職人が博覧会へ挑戦し、それぞれ異なるアプローチで産地の発展を促進した。また、商品の種類を増やし、大胆に新しい技術に挑戦する姿勢が見られ、博覧会が新たな工芸品開発の契機となったことが分かった。

紫塗については、新たに倉田初蔵がその創始者である可能性を示唆し、彼が紫塗りだけでなく、堆黒や加飾などの技術や樺細工にも精通していたことが明らかになった。特に、紫塗の技法が門外不出であったことから、初蔵の開発した技術がどれほど高いものであったかが伺える。

このように秋田の工芸文化を再検証する上で、博覧会関係資料は大変有用であり、今後も一層の研究が求められる。本稿では樺細工と紫塗について検証したが、他の秋田県内の工芸品についてもさらなる調査と研究を進めることで、より深い理解が得られるだろう。

本稿をまとめるにあたり、樺細工伝承館元館長中田達男氏、三浦欽一氏、大館樺細工職人小笠原豊氏からご教示をいただきました。また、樺細工伝承館星野悟之氏、藤木伝四郎商店代表取締役三沢知子氏、樺細工伝統工芸士経徳明夫氏、御所野薫氏、辻淑子氏から調査の協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

(注1) 澳国博覧会事務局1875『澳国博覧会報告書』、米国博覧会事務局1876『米国博覧会報告書第一日本出品解説』、米国博覧会事務局1876『米国博覧会報告書第2巻 日本出品目録』、米国博覧会事務局1876『米国博覧会報告書第3巻 出品目録』、内国勸業博覧会事務局1882『第二回(明治十四年)内国勸業博覧会審査評語上』、内国勸業博覧会事務局1890『第3回内国勸業博覧会褒賞授与人名録』、内国勸業博覧会事務局『第五回内国勸業博覧会受賞名鑑』、松原又重1895『第四回内国勸

業博覧会受賞名鑑』、東京国立文化財研究所1997『明治期万国博覧会美術品出品目録』に記載されている秋田県の工芸分野に出品した人物及び出品物及び講評を、別表にまとめた。

(注2) 秋田県史によると、「宝暦年間(1751-1761)阿仁街道で南部の牛飼親方が何者かに殺害されたが、その腰に阿仁の樺洞乱が2個ぶらさがっていたという記載が長岐文書にみえている」とある。この長岐文書が、阿仁樺細工が登場する一番古い文献だといわれている。

(注3) おそらく「しつらえ箱」という意味で、菓子器や重箱などの類だと思われる。

(注4) 茶色の地に薄茶色の絵具をかすれ引いたような見た目で、光の反射によって銀のようにみえる樺模様。

(注5) 一見カビのような斑点に、薄く霜が降りたような樺模様。

【引用・参考文献】

合川町郷土史編纂委員会1966『合川町史 郷土のあゆみ』

秋田県1962『秋田県史 民俗工芸編』

秋田県教育委員会1991『秋田県の諸職』

秋田県教育委員会2007『あきたの工芸』

秋田魁新報社1974『秋田人名大事典』

伊藤真実子2008『明治日本と万国博覧会』

大館市1986『大館市史 第三巻下』

「角館誌」編纂委員会1967『角館誌第三巻北家時代編上』

角山幸洋1999『研究双書第113冊ウィーン万国博の研究』

國雄行2010『博覧会と明治の日本』

斉藤洋子2023『秋田県立博物館研究報告第48号』「能代春慶—江戸時代から明治期にかけてのデザインの変遷—」

鈴木實1982『伝統産業樺細工』

第五回内国勸業博覧会1903『第五回内国勸業博覧会出品目録』

大仙市2007『太田町史 通史編』

大仙市2007『太田町史 置市・年表編』

田中芳男・平山成信1897『澳国博覧会参同紀要』

東京国立文化財研究所1997『明治期万国博覧会美術品出品目録』

東京国立博物館1997『明治デザインの誕生—調査研究報告書「温知図録」一』

内国勸業博覧会事務局1882『第二回(明治十四年)内国勸業博覧会審査評語上』

森山春雍1897『澳国博覧会参同紀要』「澳国博覧会への参加方針」

米国博覧会事務局1876『米国博覧会報告書 第1巻 日本出品解説』

米国博覧会事務局1876『米国博覧会報告書 第2巻 日本出品目録』

米国博覧会事務局1876『米国博覧会報告書 第3巻 出品目録』

宮川泰夫2002『樺細工工芸の存立機構 : 都鄙の重合と接遇の環境』

吉成直太郎1936『角館樺細工』

(別表1) 秋田県の工芸品に関する博覧会出品受賞名簿 ■=判読不能

受賞	出品者	製作地	出品内容	講評・評価
ウィーン万国博覧会 (1873年明治6)				
有功賞	秋田県		野代塗	有功ノ賞牌ハ製工ノ精妙物品ノ高上ナルニヨリ貿易ノ道ヲ開キシニヨリ益精好ノ器械を用ヒシニヨリ及物品ノ廉直ニヨリテ衆ニ秀デシ者ニ興フ
フィラデルフィア万国博覧会 (1876年明治9)				
ブロンズ賞	石岡 庄寿郎		漆製家具	今此漆説ノ末ニ臨ンデ更ニ春慶漆ビ事ヲ記セントス 此漆ヤ素ト黄色ニシテ透明ナルヲ以テ佛蘭西木器ノ如キ貨物ヲ製スルニ用ウ其法 先ツ髹樂ヲ木地ニ襪塗シ面ノ疎理(キメが粗い)ヲ填勻シ然シテ後ニ精磨時アリテ藤黄或ハ紅花及ビ柿油ヲ以テ著色トス 其光沢殊ニ鮮明ナリトス後チ刷毛ノ刷毛ヲ以テ漆液ヲ塗布ス 此液ハ予メ若干油ヲ混スルヲ以テ更ニ精磨ヲ待タズ能ク之ヲ乾シテ完全ノ髹澤ヲ放ツ此種ノ最モ有名ナル者ハ羽後州秋田ヨリ製出ス又甚タ光沢アリテ美麗ノ極ム而シテ製スルニ当テ塵ヲ避ケ且ツ其漆器ヲシテ多湿ノ氣中ニ乾定セシメンカ為メニ船ヲ海上ニ浮ベテエ其中ニ施スト言フ
	那波三郎右衛門		秋田織 三四白	
第1回国内勲業博覧会 1877年(明治10) 52点入賞内工芸関係16点)				
鳳紋賞	千葉条左衛門	秋田県羽後国秋田郡七日市村	縞敬織 敬織、敬織男帯 八丈縞	本地ノ名産ニシテ他ノ企及スベカラザル所ハ糸質ノ最良ナルト機織ノ巧熟トニアリ其無色ノモノハ星点分明ニシテタ斉整ニ其色染縞状ノモノハ幽妍能ク時好ニ適ス而シテ価格亦廉ナリ勉勵ノ効ヲ觀ルニ足ル
鳳紋賞	田中平八	秋田県羽後国秋田郡長町下新町	大幅白敬織 田中平八他64名 保太織、八丈敬織、八丈縞黒、八丈縞紺、敬、敬織帯地白、敬織帯地縞、七子織、亀縞織、八丈縞、八丈黒、八丈浮織、博多縞紺、南部縞紺、小伯縞、敬織縞、奉書縞、八丈織太	敬織ハ従来本地ノ名産ニシテ他ニ比類ナキモノトス 較近各種ノ機織ヲ興ス糸質最良ニシテ織染精美ナリ且価値ノ貴カラザルモノヲ以テ販路ヲ開スルニ足ル衆工ト共ニ勉勵進歩ノ効著シ
鳳紋賞	石岡 庄寿郎	羽後国山本郡能代萬町	能代漆器 大櫛、掛棚、会席膳、広蓋、提重 椅子、巻簾入	能代漆器ハ邦内無比ノ名産トス而シテ石岡氏ノ製シテ最良ナルト雖モ釘紋把手等ノ裝飾多量ノ純銀ヲ用ス以テ其意ニ騰貴シテ到底精巧ノ盆スニ至ラズ其小櫛ハ壁掛小架ハ頗ル優美ニシテ製作ノ巧観ルニ足レリ
花紋賞	妹尾兼徳	秋田県羽後国秋田郡手形谷地町	白鳥毛織(白鳥毛木綿糸白地)、 貉毛織(貉毛木綿糸鼠色)	鳥毛若シクハ貉毛ヲ挿織ス奇巧ニシテ他ニ見ル罕ナリ頗ル御冬ノ良物トス慣熟ノ製嘉ス可シ
花紋賞	那波三郎右衛門	秋田県羽後国秋田郡川端三丁目	白羽二重 櫛山三枚橋町 齊藤貞ノ助 縞八丈 櫛山笠町 齊藤吉衛門 白敬織 川口下裏町 北川豊太郎	純質美良ニシテ機織精緻ナリ白沢喜ブ可シ良工ヲ課シテ収集ニ勉ムルノ効ヲ觀ル
花紋賞	山中新十郎	秋田県羽後国秋田郡大町三丁目	縞八丈 櫛山南外張新町 福田徳三郎 白敬織 三枚橋町 坂本南右衛門 縞木綿 秋田郡櫛山愛宕下茂名新町 永井金之助、赤埴助九郎、柴田徳之進	糸質良好ニシテ機織妙巧ニ配状亦宜キニ適ス且称低価ナルヲ覺フ良工ヲ課シテ収集ニ勉ムルノ効ヲ觀ル
花紋賞	蓼沼新太郎	秋田県羽後国秋田郡川尻	縦横縞敬織 敬織 紫麻織 紫麻綿と生糸	糸質織製共ニ善良且ツ星点ヲ逐ヲ織縞ヲ施ス殊ニ精新ナリ頗ル時様ヲ得タルモノトス意匠嘉ス可シ
褒状	佐藤恭吉	秋田県羽後国秋田郡川尻村	縞敬織 紺地鼠色堅縞縞 白敬織 水色 白練龍紋	機織配状共に佳ナリ其頗る廉価トス勉勵ノ製ヲ觀ルニ足ル
褒状	越後谷庄兵衛	羽後国山本郡能代馬喰町	能代漆器 会席膳、広蓋、提重、卓、吸物膳	漆器未ダ其精ヲ得スト雖モ日用ノ什具ニシテ品位ノ高尚ナルヲ觀ル
褒状	中山松之助	羽後国山本郡能代大町	樹皮製品 香机(樟沈金彫)、菓子■	製形未タ宜シカラズト雖モ櫛皮ヲ膠貼シテ沈金ノヲ装ス称意匠ノ好キヲ觀ル
褒状	山打三九郎	羽後国山本郡能代富町	能代漆器 角会席膳、広蓋、提重、角重、硯箱	重箱及ヒ硯箱ノ如キハ形状製作共ニ佳ナルヲ觀ル
褒状	山田政五郎	秋田郡大館町	大館春慶漆器	製作称粗ナリト雖モ他ノ能代漆器ニ比スレバ価殊ニ廉ナルヲ以テ家常ノ雑用ニ適セリトス
褒状	渡邊萬蔵	仙北郡角館村	漆膳具櫛皮印籠 檜春慶塗 膳具	日常ノ什具品位卑シカラズ漆法モ亦可ナリ其印籠ハ頗ル雅致アルヲ觀ル
褒状	高取源内	羽後国雄勝郡岩崎町	蔓製籃器	燕覆子蔓製ノ小盆炭斗等編綴シ得テ頗ル雅趣アリトス
褒状	堺五兵衛	羽後国秋田郡荒瀬村銀山町	欸冬摺紙 欸冬摺金巾、欸冬摺絹、襖紙	印葉雅趣アリ襖及ヒ壁紙ニ適ス且廉価ニ製シ得ハ最妙ナラン
褒状	宮越精之進		欸冬摺紙「安喜多貴印葉図」	印葉雅趣アリ襖及ヒ壁紙ニ適ス且廉価ニ製シ得ハ最妙ナラン
	小番光雄	羽後国由利郡天島城内村	綾織星七子	
	奥山所左衛門	由利郡新澤村	藤布、藤皮白	
	和田三郎太 佐々木利三郎		白木綿	
	伊藤喜兵衛	平鹿郡横手町	綾木綿 大嶋清左衛門	
	竹屋久五郎 竹屋金之助	秋田市川反二丁目	煙管	
	石井権六	羽後国山本郡能代大町	茶棚(檜春慶塗)	
	加藤忠右衛門	雄勝郡三梨村	角千蓋盆 替盆黒蒔絵、朱沈金	
	佐藤六郎右衛門他2名	雄勝郡三梨村	吸物碗朱蒔絵	
	阿部栄吉 (阿部市郎兵衛他2名)	雄勝郡三梨村	吸物碗黒沈金	
	加藤駒吉	雄勝郡大館村	会席膳黒、会席碗朱	
	高橋亀蔵	雄勝郡川連村	角大平朱蒔絵	

受賞	出品者	製作地	出品内容	講評・評価
	高橋治右衛門 伊勢善右衛門	雄勝郡川連村	丸大平朱沈金	
	阿部 助 古関兵助	雄勝郡川連村	碗黒、碗朱	
	沓沢利兵衛	雄勝郡川連村	蓑盆 外黒内梨地手付	
	利部内蔵之助	秋田郡黒沢村	イタヤ 箕、葛籠	
	加藤専四郎	濱田村	蔓籠	
パリ万国博覧会 1878年(明治11)				
賞状	石岡 庄寿郎		春慶塗盆、茶棚、提重、膳 巻煙草入	
第3期秋田博覧会(八橋植物園) 1880年(明治13)				
一等賞牌	那波三郎右衛門	南秋田郡川反三丁目	秋田平袴地、亀綾織品々	
三等賞牌	山中新十郎	南秋田郡大町三丁目	縞木綿品々	
三等賞牌	蓼沼新太郎	南秋田郡川尻村	絹上布女帯見手本	
三等賞牌	佐藤恭吉	南秋田郡川尻村	絹上布女帯見手本	
三等賞牌	田中平八	南秋田郡長野下新町	白畝織八丈縞	
三等賞牌	大和田清風	南秋田郡築地東上町	白木綿	
三等賞牌	黒丸タケ	河辺郡百三段新屋村比 内南町	八丈縞	
第2回内国勲業博覧会 1881年(明治14) 31点入賞				
有功賞	石岡 庄寿郎	秋田県羽後国山本郡能 代萬丁	春慶漆器	各種ノ器具価格貴シト雖モ素材至良ニシテ漆面ニ 斑類ナリ製作甚巧ナリ殊ニ二十個ノ椀ノ形体端一 ニシテ口端皆吻合スルカ如キハ他工ノ能ク企及ス 可キニ非ス其有功嘉賞ス可シ
褒状	清岡行三	秋田県羽後国南秋田郡 上長町	白畝織、八丈織	白畝織ハ地質柔靱ニシテ經久ニ耐フ八丈織ハ縞状 良好ニシテ価値モ亦廉ナリ頗ル嘉ス可シ
褒状	山中新十郎	秋田県羽後国南秋田郡 大町	縞八丈	組織完整縞状佳良ニシテ価値モ亦貴カラス頗ル嘉 ス可シ
褒状	那波三郎右衛門	秋田県羽後国南秋田郡 川端	白畝織、縞畝織	白畝織ハ地質柔靱ニシテ■經久ニ耐フ縞畝織亦佳 良ニシテ価値貴カラス頗ル嘉ス可シ
褒状	千葉條左衛門	秋田県羽後国北秋田郡 七日市村	白畝織	純質純白精良ニシテ組織完整ス価値モ亦貴カラス 頗ル嘉ス可シ
褒状	藤田長右衛門	秋田県羽後国仙北郡角 館上新町	春慶漆器 会席膳、三味線形盆、角盆、器具膳	勝盆ノ類塗抹稍粗ナリト雖モ価格低廉ニシテ日常 ノ用ニ適ス其平盆ノ如キハ■少シク注意ノ在ル アリ頗ル嘉ス可シ
褒状	渡邊萬蔵	秋田県羽後国仙北郡角 館岩瀬町	春慶漆器	勝盆ノ類塗抹稍粗ナリト雖モ価格低廉ニシテ日常 ノ用ニ適ス其平盆ノ如キハ■少シク注意ノ在ル アリ頗ル嘉ス可シ
褒状	安藤正兵衛	秋田県羽後国仙北郡角 館岩瀬町	櫻皮諸器	編製ノ法未タ熟セスト雖モ色澤淨クシテ需要ニ 供スルニ足ル頗ル嘉ス可シ
なし	藤田吉之助	秋田県羽後国仙北郡角 館上新町	春慶塗 吸物膳、広蓋、塗盆、机	
なし	山田政五郎	北秋田郡大館町	会席膳、水盆	
なし	高橋利兵衛	雄勝郡川連村	朱塗鐘、青漆塗德利、朱塗吸物椀、黒内朱吸物椀、会 席膳、木砂鉢	
なし	佐藤七郎兵衛	雄勝郡川連村	木盃	
パリ万国博覧会 1889年(明治22)				
銀賞 33	蓼沼 啓吉		畝織物八丈	
銅賞 29	石岡 庄寿郎			
銅賞 33	河井 忠久			
第3回内国勲業博覧会 1890年(明治23)				
有功三等	石岡庄寿郎	秋田県山本郡能代港町	文台、会席膳	
有功三等	金子駒三郎	金子駒三郎 秋田県由利郡本庄町	白畝織	
褒状	大坂亀吉	秋田県山本郡能代港町	吸物椀	
褒状	越後庄兵衛	秋田県山本郡能代港町	会席膳	
褒状	日景辨吉	秋田県北秋田郡釈迦内 村	白畝織	
褒状	田中久吉	秋田市長野下新町	白畝織	
褒状	川村永之助	南秋田郡川尻村	縞織畝	
褒状	川井忠久	秋田市大町二丁目	畝八丈	
褒状	妹尾金吾	南秋田郡川尻村	黄八丈	
褒状	信太長治	秋田市上川口	白畝織	
褒状	黒澤清太	秋田県仙北郡角館町	權製名刺入	
	大久保易太郎	秋田県羽後国山本郡能 代湊町當町	春慶塗 書棚、隅棚、卓、花筒	
	藤田ノブ	秋田県羽後国仙北郡角 館町上新町二六番地	春慶 会席膳、半月盆	
	藤田長右衛門	秋田県羽後国仙北郡角 館町上新町二三番地	春慶 桐張膳、角盆	
	芳谷吉右衛門	秋田県羽後国仙北郡角 館町上新町二番地	春慶 会席膳、状箱、硯箱、盆	
	高橋新六	秋田県羽後国雄勝郡川 連村七三番地	吸物椀	
	高橋亀太郎	秋田県羽後国雄勝郡川 連村七三番地	五段組重箱、四段組重箱、夜食膳	
	高橋利兵衛	秋田県羽後国雄勝郡川 連村八二番地	会席膳、吸物椀、	

受賞	出品者	製作地	出品内容	講評・評価
	佐藤常吉		吸物椀	
シカゴ・コロンブス万国博覧会 1893年(明治26)				
ブロンズ	石岡 庄寿郎			
	池田 勘左衛門		絹布	
	辻 兵吉		絹布	
	大坂 亀吉			
第4回内国勲業博覧会 1895年(明治28)				
有功3等	田中久吉		縞八丈各種	
有功3等	泉勘六		白畝織	
有功3等	石岡庄寿郎		春慶塗各種	
パリ万国博覧会 1900年(明治33)				
	樋渡 利三郎		菓子匣、盆類各種、銀菓子器其他	
名誉賞	竹谷 金之助		湯沸、急須、襟袴ピン、銀湯沸其他、銀菓子器他	
コロンブス万博 1902年(明治35)				
ブロンズ	石岡 庄寿郎			
第5回内国勲業博覧会 1903年(明治36)				
3等賞	石岡庄寿郎	能代港町	会席膳 春慶塗証日角形船底会席膳、春慶塗空日合掌鮎目引会席膳、春慶塗箸、春慶塗大形冠蓋硯箱、春慶塗空日櫻透八寸台、春慶塗森緑硯箱、春慶塗棋日棧蓋硯箱、春慶塗六角筆立、春慶塗足杯台、春慶塗枳形狸草盆、春慶塗印籠、春慶塗花台、春慶塗提重、春慶塗小管軸、春慶塗箸箱、春慶塗胴張無地盆、春慶塗巻煙草入付、春慶塗六寸角形無地、春慶塗曲隅鮎目引盆、春慶塗六角菓子盆、春慶塗四段重、春慶塗四ツ足卓、春慶塗森緑菓子重	
褒賞	大坂亀吉	山本郡能代港町富町四二	木膳 春慶塗足付本膳、春慶塗会席膳、春慶塗菓子盆、春慶塗反菓子盆、春慶塗印籠、春慶塗硯箱	
3等賞	田中久吉	秋田市西根小屋町中町	八丈縞 絹織物厚織白畝織、絹織物薄織白畝織、絹織物縞畝織、絹織物縞八丈	
3等賞	泉勘六	雄勝郡湯澤町七七二	絹織物縞畝織 絹織物白畝織、絹織物白畝斜子、絹織物白斜子、絹織物白羽二重、絹織物縞畝織、絹織物八丈畝織、絹織物縞八丈、絹織物白畝織大巾兵見帯、絹織物中巾、絹織物筋織中巾、絹織物小巾、絹織物鼠色、絹織物太糸織	
3等賞	那波三郎右衛門	秋田市川反三丁目一	紋羽二重 絹織物大巾畝織、絹織物大巾紋畝、絹織物畝織大太物、絹織物織軍羽織地、絹織物織五丈物、絹織物紋羽二重、絹織物縞八丈、絹織物袴地、絹織物紋畝織五丈物、絹織物縞畝織、絹織物八丈風通織、絹織物女帯地、絹織物畝織服紗大巾、絹織物畝織中巾、絹織物畝織並巾、絹織物大巾紋畝織ハンカチーフ、絹織物大巾紋縞ハンカチーフ、絹織物中巾ハンカチーフ	
褒賞	出羽物産合資会社川連支店	雄勝郡川連村大館	会席膳 黒内朱九寸五段重台付白彫、朱八寸五段重台ナシ沈金、黒尺三寸会席艶消、黒内朱汁椀、黒加々丸吸椀沈金、沈朱牡丹形沈金吸椀、黒硯箱蒔絵付	
褒賞	越後庄一郎	山本郡能代港町上町	春慶塗卓 春慶塗茶酌、春慶塗掛物軸、春慶塗筆軸、春慶塗櫛、春慶塗簪、春慶塗提菓子重、春慶塗三ツ組菓子重、春慶塗湯桶、春慶塗短冊箱	
褒賞	妹尾兼治	秋田市保戸野川端町	絹織物白畝織 絹織物玉糸織袴地、絹織物白畝織厚織、絹織物白畝織薄織、絹織物縞八丈、絹織物縞八丈	
褒賞	妹尾東七郎	秋田市保戸野新村一〇	白畝織 絹織物白畝織、絹織物玉糸織袴地、	
褒賞	田中二輔	秋田市船大工町	八丈縞 絹織物縞八丈	
褒賞	佐藤多吉	秋田市大町三丁目二七	八丈縞 絹織物白畝織、絹織物斜子、絹織物縞畝織、絹織物縞八丈	
褒賞	坂本南右衛門	秋田市檜山三枚橋二三	絹織物八丈縞 絹織物白畝織、絹織物縞畝織、絹織物縞八丈	
褒賞	山崎忠治	南秋田郡土崎湊町本山町	綿織物、木綿織	
褒賞	新為昇藏	由利郡亀田町亀田大町	木綿織、綿織物袴地、綿織	
褒賞	佐藤雄次郎	由利郡亀田町富田	紫葳織 毛交織物(蕨天然無地綾)毛交織物(蕨天然鼠無地綾)、毛交織物(蕨天然縞綾)、毛交織物(蕨天然鼠縞綾)、毛交織物(蕨天然平織)	
褒賞	佐藤幸次郎	由利郡本荘町美倉町	木綿紺色染 染物鳥羽紺、染物木綿紺	
褒賞	工藤勘吉	由利郡本荘町油小路	木綿織 綿織物	
褒賞	小笹銀助	河辺郡牛島町六五	木綿紺色染 綿織物、正紺染、染物正紺染	
褒賞	山本長吉	河辺郡新屋町	木綿織 綿織物正紺染	
褒賞	三浦嘉助	河辺郡新屋町	八丈縞 絹織物白畝織、絹織物縞八丈堅大巾、絹織物縞八丈堅横、絹織物縞八丈横縞、絹織物縞八丈堅縞	
褒賞	高橋嘉藏	平鹿郡横手町栄通町三一	木綿紺染 綿織物霜降地飛白模様、綿織物霜降地飛白中模様、綿織物霜降地大模様 綿織物霜降地飛白飛工風、綿織物霜降地大白模様、綿織物小紋入紺形、綿織物白抜紺形、綿織物紺無地、綿織物吟草、綿織物紺地茶ヨリ糸縞、同月鼠ヨリ糸縞、綿織物紺地茶糸入縞、綿織物紺地鼠糸入縞、綿織物紺地白地縞、綿織物霜降地大紋入紺形	

受賞	出品者	製作地	出品内容	講評・評価
褒賞	大部隆吉	平鹿郡横手町裏町一〇	白畝織 絹織物白畝織、絹織物糸織、絹織物秋田八丈	
褒賞	田口小野吉	仙北郡角館町上新町一一	金巾裏地緋色染 染物形付染、染物紺カナキン、染物紺キヤラコ、染物千草、染物紺木綿	
褒賞	池田勘左衛門	仙北郡刈和野一二五	白畝織 絹織物綿八丈吉野織縦、絹織物綿八丈縦、絹織物畝織	
褒賞	平福善藏	仙北郡角館町横丁一二	秋田織黒紋付染 染物黒絹織紋付、染物紺木綿裏地、染物濃紺木綿裏地	
褒賞	加藤富太郎	雄勝郡川連村字大館一一五	黒重箱	
褒賞	守屋源之助	雄勝郡川連村	蒔絵付黒重箱	
褒賞	守屋作次郎	雄勝郡川連村	三組盃	
褒賞	加藤喜太郎	雄勝郡三梨一二	硯箱	
褒賞	樋渡千代治	雄勝郡川連村	皆朱二尺五寸ツル足付広蓋、惣黒菓子椀、惣黒乱盆蒔絵付、皆朱八寸五段重、外罎内裏製地衣盆、外溜内朱柿形吸椀沈金付、洗朱富士形吸椀吉野絵付、黒内亦駒形吸椀沈金付、外洗朱内黒名刺盆絵付、外黒尺三寸会席膳蒔絵付、研出付台巻煙草入、皆朱通盆大小蒔絵付、洗朱尺四寸角皿鉢、菓子椀	
褒賞	高橋久三	雄勝郡川連村川連	梨地菓子器 外黒呂色内裏梨地九寸五段重台蒔絵付、梨地名刺盆蒔絵付、洗朱牡丹形吸椀吉野絵付、洗朱尺三寸会席吉野絵付、黒呂色蒔絵付衣盆、梨地菓子盆蒔絵付、透絵付菓子器台付、黒内朱蓋付椀	
褒賞	佐々木豊吉	南秋田郡太平村黒澤	箕 人大中小	
褒賞	本堂富之助	秋田市保戸野愛宕町二四	銀製茶器各種 純銀製急須丸形、純銀製湯沸、純銀製茶筥、純銀製菊葉形茶托、純銀製落葉形銅茶托、純銀製蓮葉形銅茶托、割蓋急須代用銚子、純銀製鐘、純銀製三ツ組盃、純銀製湯冷、銀製パイプ台	
褒賞	音羽彌一郎	秋田市本町五丁目	銀製匙 純銀製湯沸、純銀製急須、純銀製茶托、純銀製菓子皿、銀製匙、銀製箸、銀製銀箸、指輪銀製、紐掛銀製、銀製パイプ台	
褒賞	竹谷金之助	秋田市川端二丁目三	銀製品各種 指輪銀製、銀製箸、銀製匙、純銀製湯沸櫻彫、純銀製波二千鳥彫、純銀製石打目、純銀製角繁彫、純銀製落彫、純銀製風目、純銀製無地、純銀製角繁石目打、純銀製角繁本磨、純銀製落彫艶消、純銀製湯沸角繁、純銀製急須波彫、純銀製櫻彫、純銀製落彫、純銀製風目、純銀製樋目、純銀製石目、純銀製花鳥彫、純銀製無地、純銀製落彫艶消、純銀製無地丸形、純銀製角形、純銀製牡丹彫、純銀製角繁風目、純銀製茶托落彫、純銀製蓮葉形、純銀製土目形、純銀製茶筒樋目、純銀製菓子器桃形純銀製落彫、純銀製チロリ樋目、純銀製唐草彫、純銀製波二鶴彫、純銀製盃蓮葉、純銀製富士川彫、純銀製胡顔形、純銀製松一鷹、純銀製	
褒賞	竹谷勝藏	秋田市川端二丁目三	銀製時計各種 煙管純銀製、時計純銀製、パイプ純銀製、前金物純銀製、緒締純銀製、時計鎖純銀製、指輪銀製	
褒賞	澁谷金治	秋田市川端三丁目一三	銀製品各種 純銀製盃大中小、純銀製急須、純銀製落彫、純銀製湯沸大小、純銀製コップ、純銀製茶卓、純銀製時計鎖、純銀製上信形煙管、純銀製石州形煙管、純銀製パイプ、銀製匙、銀製箸	
褒賞	佐藤福藏	秋田市市中町二二	純銀製煙管	
褒賞	藤木伝四郎	仙北郡角館町下新町四五	樺製菓子入及巻蓆 樺細工印籠三段、樺細工置煙草入、樺細工表皮製、樺細工縮緬皮製、樺細工茶筥筒、樺細工衣衾用、樺細工花筒、樺細工藤巻筒、樺細工節附、樺細工柱カクシ、樺細工置煙草入、樺細工名刺入、樺細工総皮製、樺細工緒紋玉、樺細工箱枕、樺細工茶入、樺細工中形、樺細工菓子重台附箸共、樺細工巻煙草入無双形、樺細工銀皮製、樺細工霜降皮製、樺細工巻煙草入無双総皮製、樺細工髑髏形皮製、樺細工鉛形提煙草入並皮製、樺細工東形提煙草入表皮製、樺細工小槌形提煙草入表皮製、樺細工以形提煙草入並皮製、樺細工置煙草入、会席膳、盆、盆漆フキ上げ、硯箱、状箱、状箱漆フキ上げ	
褒賞	長松谷弟藏	仙北郡角館町下岩瀬町一九	樺製品各種 樺細工茶筥、樺細工菓子重、樺細工附戸盆、樺細工茶筥筒、樺細工床柱、樺細工柱籠、樺細工衣衾用、樺細工額面、樺細工置煙草入縮緬製、樺細工分銅形、樺細工並形船形、樺細工東形、樺細工提ヶ巻煙草入鉛形筒付前蓋用、樺細工提ヶ巻煙草入細縫、樺細工提ヶ巻煙草入縮緬皮、樺細工煙管筒物樺巻揚製、樺細工巻煙草入無双形裏樺製、樺細工巻煙草入無双形銀樺製、樺細工巻煙草入磨、樺細工巻煙草入無双大形磨、樺細工眼鏡入、樺細工名刺入	
褒賞	宮越精之進	秋田市東根小屋町一三	染物落摺畝織帛紗鯨尺二尺巾、染物落摺畝織帛紗鯨尺一尺八寸、染物落摺畝織帛紗鯨尺六寸、染物落摺畝織帛紗鯨尺四寸、染物落摺畝織帛紗鯨尺三寸、染物落摺畝織帛紗鯨尺二寸、染物落摺畝織帛紗鯨尺一寸、染物落摺畝織帛紗鯨一尺一寸、染物落摺畝織帛紗鯨一尺、染物落摺畝織女袴、染物落摺襟地、染物落摺羽織裏地、染物落摺縮緬帯揚、染物落摺瓦斯畝織帛紗大中小、染物落摺綿巾帛紗大中小	
	田中徳藏	秋田郡上小阿仁村小澤田	絹織物白畝織	
	田中徳藏	秋田郡上小阿仁村小澤田	絹織物白畝織	
	湯瀬哲太郎	秋田市中亀ノ丁末町	交織物絹綿利用織	
	古道豊吉	秋田市大町三丁目	絹織物綿八丈	
	山崎忠治	南秋田郡土崎湊町本山町	綿織物	
	小野千代松	山本郡能代港町畠町	絹織物白畝織、絹織物黄八丈、絹織物吉野織	
	佐用健藏	秋田市室町三	染物落摺風呂敷	

受賞	出品者	製作地	出品内容	講評・評価
	渡邊幸助	河辺郡牛島町牛島	綿織物徳用織	
	大島金治	河辺郡新屋町	綿織物正紺織	
	門脇助内	河辺郡新屋町	綿織物飛白	
	相厚しの	河辺郡新屋町	綿織物飛白	
	小田切猪太郎	鹿角郡花輪町	綿織物紫染	
	小田切善五郎	鹿角郡花輪町	綿織物紫染	
	小田島源太郎	鹿角郡花輪町	綿織物紫染	
	村山長次郎	鹿角郡花輪町	綿織物紫染	
	佐藤練助	鹿角郡花輪町	綿織物紫染	
	齋藤時之助	鹿角市花輪町	綿織物紫染	
	和田平三	由利郡亀田町	綿織物織	
	那須春齊	由利郡亀田町	綿織物織	
	松永傳兵衛	由利郡亀田町亀田	綿織物、綿織物織	
	佐々木長蔵	由利郡亀田町亀田大町	綿織物縞織、綿織物織、綿織物	
	菊地豊和	由利郡亀田町亀田亀田町	絹織物縞八丈	
	加川久治	平鹿郡横手町四日町下三四	瓦斯縞青茶絹糸入、瓦斯縞青茶中柄絹糸入、瓦斯縞茶二鼠入、瓦斯縞鼠ノ大明、改良縞茶カラミ大明、改良鼠織、改良縞絹糸入、絹織物青茶一本縞、交織物瓦斯赤茶袴地二本一本、交織物瓦斯青茶二本一本袴地、交織物絹糸白茶中柄、交織物瓦斯茶鼠柄入縞、交織物緋入大柄、交織物赤黄縞入大縞、交織物赤茶柄之大名縞	
	高坂孫三郎	平鹿郡横手町四日町中町六	交織物瓦斯紺トロメン、交織物縞紺トロメン、交織物瓦斯織縞織、交織物糸入瓦斯縞織、交織物瓦斯八ツ細織、交織物瓦斯節糸入、交織物地織立縞、交織物糸入立、交織物緋入立縞、交織物緋入節織	
	小松孫兵衛	平鹿郡横手町四六	木綿縮改良縞、木綿上紺縞、木綿別紺織、木綿改良縞、交織物縞摺糸、染物木綿稀生紺、染物木綿紺無地、染物木綿霜降り形付、染物木綿霜降り小形付、染物木綿紺形付、染物木綿吟花色、染物木綿裏地、染物吟草、染物絹糸紋畝織黒紋付、染物木綿黒紋付、染物節糸節横黒紋付、交織物太袖横織、交織物糸入瓦斯縞、交織物縞縞織、交織物瓦斯縞織、交織物瓦斯袴地、交織物瓦斯白縞、交織物細糸太袖大格子、交織物瓦斯白格子織、交織物秋田黄八丈縞、交織物秋田上黄八丈縞、交織物秋田黒八丈縞	
	織田辰五郎	平鹿郡増田町増田四三四	綿織物横織、綿織物青縞、交織物瓦斯織、染物紺色木綿、染物紺形付木綿、染物木綿浅黄紋	
	大塚易蔵	平鹿郡浅舞町	染物柳紋木綿	
	加賀屋仁右衛門	平鹿郡浅舞町	染物七紋	
	石川春治	平鹿郡角間川町字町頭七七	交織物紫蘇織浅黄地、交織物鼠色地、交織物大縞入、交織物中縞入、交織物小縞入	
	照井しも	平鹿郡栄村新藤柳田一四	綿織物三樹飛白ガス木綿	
	菅原サキ	平鹿郡栄村大屋新町八九	絹織物生糸門一染織、交織物瓦斯得草織	
	太田西之助	雄勝郡湯澤町三八五	絹織物黄八丈縞、絹織物黄縞八丈	
	信田虎之助	仙北郡角館町下岩瀬町六	綿織物白縞、綿織物茶縞、綿織物中割縞、綿織物緋入縞、綿織物變(変)柄縞	
	宮本松三郎	仙北郡角館町下岩瀬町三	綿織物ガス白畝織一本横、綿織物二本横、綿織物黒畝紋付、綿織物吟草、綿織物吟花色	
	宮本敏三郎	仙北郡角館町下岩瀬二二	織物ガン畝織飛入、織物棒縞、織物珍ガラ、織物真綿織白地、織物飛白入、織物綿ガス交袴地茶棒、織物鼠棒、織物金茶棒、織物茶ガラ、織物鼠ガラ、織物飛白入茶ガラ、織物秋田ガラ、織物津軽ガラ、織物萬スジ、織物白ガラ、織物木綿縮大明、織物棒縞、織物飛白入大ガラ、織物飛白入小ガラ、織物中ガラ、織物真綿入、織物星入、織物袴地茶棒、織物萬茶棒	
	宮本庄之助	仙北郡角館町下新町二〇	染物形付染、染物紋紺木綿、染物秋田紺木綿花色木綿、染物秋田紺木綿、染物花色木綿	
	蓮沼忠蔵	仙北郡角館町小人町二〇	絹織物白畝織、絹織物縞畝織、絹織物縞八丈、絹織物小割八丈縞、絹織物横付八丈、絹織物縞中割縞、絹織物袴地	
	小林文右衛門	仙北郡角館町岩瀬町一	絹織物白畝織、絹織物縞八丈	
	沼田ヨソ	北秋田郡大館町	絹織物縞八丈、絹織物縞八丈、絹織物白畝織、絹織物白畝縞織	
	日景房治	北秋田郡釈迦内村大字釈迦内	絹織物白斜子織	
	長野谷長四郎	南秋田郡土崎湊町愛宕町	綿織物	
	蓼沼敬吉	南秋田郡川尻村一一	絹織物縞八丈	
	佐藤房太郎	南秋田郡川尻村二二四	絹織物縞八丈	
	佐藤孝太郎	南秋田郡川尻村二二二	絹織物縞八丈	
	川連漆器出品		漆器各種	
	上杉徳次郎	鹿角郡毛馬内町毛馬内三二九	茶湯釜巖巴形、茶湯釜寸堂形、鉄瓶巖寸堂形、鉄瓶寸胴形、鉄瓶吾住家形、鉄瓶算玉形、鉄瓶鶴首、鉄瓶巖算玉形、鉄瓶東屋形、鉄瓶富士形、鉄瓶輪口広口形、鉄瓶茄子形、鉄瓶巻筒形、鉄瓶陶器形、鉄瓶寸胴形	
	石川友吉	秋田市鍛冶町上川反一八	唐物形雨龍椀様紫銅火鉢、花鳥梅三鶯椀様紫銅火鉢、唐物形波二千鳥椀様紫銅火鉢、花鳥形唐草椀様紫銅火鉢、唐物切立形無地紫銅火鉢、花鳥椀様瓶形、紫銅火鉢、鉄瓶、鉄瓶坐高堂形、鉄瓶富士形、鉄瓶大鼓形、鉄瓶瓦張形、鉄瓶鶴首形、鉄瓶雨龍形、鉄瓶國師形、鉄瓶萬代矢形	
	澁谷富五郎	秋田市川端三丁目一三	純銀製盃、銀製煙管	

受賞	出品者	製作地	出品内容	講評・評価
	内田又十郎	秋田市本町五丁目四一	純銀製盃、純銀製盃彫刻、パイプ純銀製	
	進藤蓮治	山本郡能代港町上町三六	銀盃、銀コップ、銀急須、銀簪、銀煙管、金銀玉附簪、銀指輪、銀毛抜、銀帶止、銀時計針、	
	秋田銅器合資会社代表社員 川村久吉		銅製品	
	竹谷 徳之助		金属製品、銅器	
	櫻庭久吉	北秋田郡大館町東大館五七一	樺細工下ケ煙草入、樺細工巻蕨入、樺細工珠敷	
	條田道吉	仙北郡角館町歩行町三	樺細工巻煙草入、樺細工同並皮、樺細工丸形煙草入、樺細工煙草筒、樺細工東形蕨入	
	黒澤清太	仙北郡角館町東勝染丁一二三	樺細工菓子入盆附、樺細工置煙草入星皮製、樺細工置煙草入盆付縮細皮、樺細工巻煙草入星皮製、樺細工提煙草入筒付き銀皮製、樺細工提煙草入樺巻縮細皮製、樺細工脷口銀皮製、樺細工巻煙草入無双形	
	経徳斐太郎	仙北郡角館町田町下町三	樺細工菓子入盆付、茶菓子入台、茶菓子入台盆付、樺細工花瓶	
	御所野春成	北秋田郡下小阿仁村鎌澤	樺細工置煙草入、樺細工巻煙草入、樺細工茶菓子入、樺細工菓子入台	
	御所野要蔵	北秋田郡下小阿仁村鎌澤	樺細工箸、樺細工茶筴、樺細工台付菓子重、樺細工巻蕨入箱、樺細工中折巻蕨入、樺細工カブセ蓋巻蕨入、樺細工角形置蕨入、樺細工丸形置蕨入、樺細工黒皮煙管筒、樺細工黒皮下ケ煙草入、樺細工霜降皮煙管筒、樺細工霜降皮下ケ煙草入	
	御所野秀治	北秋田郡下小阿仁村鎌澤	樺細工煙草入形樺煙草入、樺細工巳角付樺煙草入、樺細工小判形付樺煙草入、樺細工紙折	
	大倉幸蔵	北秋田郡下小阿仁村鎌澤	樺細工時計台、樺細工中折巻煙草入、樺細工総蓋巻煙草入、樺細工廻シ蓋巻煙草入、樺細工煙草入形樺煙草入	
	渡部千代吉	由利郡亀田町亀田最上町	竹細工炭取菱形、竹細工炭取丸形、竹細工手籠	
	昌山小文治	秋田郡大館町	春慶七ツ鉢、黒七ツ鉢、外黒内朱七ツ鉢、三ツ重飯鉢	
	越後庄兵衛	山本郡能代港町馬喰町六九	春慶塗巻煙草入、春慶塗煙草入、春慶塗茶盆、春慶塗硯箱、春慶塗茶杓、春慶塗筆軸	
	木庄敬蔵	仙北郡角館町岩瀬一四	春慶胴張会席膳角形、春慶筋立、春慶硯箱、春慶状箱、春慶花台、春慶八寸膳、春慶角簪、春慶丸簪、春慶	
	渡邊菊蔵	仙北郡角館町二七	春慶角小箸、春慶丸小箸	
	小林新太郎	仙北郡角館町上新町二〇	重箱、二枚折衣衿用、会席膳、丸扇子形入り組、櫻形入り組、六角形入り組、替盆、状箱、硯箱、箸箱、巻煙草入、箸入、五重二枚蓋	
	小松松四郎	平鹿郡横手町大町中二四	木地蠟塗臺斗、洗朱研出絵文台、青貝散布塗花台、研出シ塗硯箱、	
	古関金治郎	平鹿郡増田町増田四七	五段重	
	本間寛助	雄勝郡川連村大館八八	梨地牡丹虫喰塗菓子器、内梨子地外黒呂研出蒔絵付吸碗、内朱外溜花鳥沈金吸碗、櫻皮透溜塗菓子器、黒呂顔面日ノ出蒔蒔絵付、洗朱錆地花鳥蒔絵付吸碗、黒内朱汁碗、皆朱三ツ組木盆、梨地菓子盆	
	古関新左衛門	雄勝郡川連村大館	洗朱柿形吸碗、洗朱茶盆足付、洗朱茶盆	
	上坂利吉	雄勝郡川連村大館	洗朱重箱五段、洗朱柿形吸碗、布張抜黒加賀大吸碗	
	高橋豊蔵	雄勝郡川連村大館九二	呂色名刺盆蒔絵付、研出シ花台、外呂色内裏梨地手箱蒔絵付、入隅ノ外呂色内裏梨地香箱蒔絵付、	
	高橋亀治	雄勝郡川連村	黒菓子碗、七号皆赤木盆	
	高橋熊吉	雄勝郡川連村川連六二	惣黒利丸吸碗蒔絵付、皆朱蓋付汁碗、皆朱柿形吸碗蒔絵付、黒内朱肩練吸碗沈金付	
	高橋倉之助	雄勝郡川連村川連五二	皆朱尺三寸丸挽鉢蒔絵付、洗手蓋汁碗、惣黒内洗朱五段重台付無地、洗朱尺二寸蒔絵付会席吉野膳、洗朱吸碗福蒔絵付吸碗	
	高橋源治郎	雄勝郡川連村	黒内朱一尺五段重台付、洗朱一尺五段重	
	高橋茂助	雄勝郡川連村川連九二	外黒呂色内裏地盆、透絵付硯箱	
	高橋新平	雄勝郡川連村	黒内朱駒形吸碗、皆朱柿形吸碗、黒内朱汁碗	
	高橋新市	雄勝郡川連村	黒内朱平加々丸吸碗、	
	高橋新三郎	雄勝郡川連村	黒内朱平加々丸吸碗蒔絵付	
	廣島嘉吉	雄勝郡川連村大館五二	洗朱七寸五段重、黒内朱膳碗楡、黒膳碗楡、黒名刺盆沈金付、洗朱名刺盆蒔絵付、黒状箱蒔絵付、黒台付菓子器沈金付、黒駒形吸碗蒔絵付	
	藤原西松	雄勝郡川連村大館二	内黒外洗朱独楽形吸碗蒔絵付、黒内朱碗	
	高橋紋太郎	由利郡本荘町田町	硯箱、茶盆	
	丹波松四郎	仙北郡生保内村生保内二七八	会席膳丸形、箸角形、巻煙草入、菓子重、会席箸白木角形、箸白木丸形	
	倉田初蔵	仙北郡横澤村中里二六	紫塗菓子箱台付、紫色塗巻煙草入、茶色塗菓子箱台付、蝦茶塗菓子箱台付、蝦茶塗重箱五重二枚蓋台付、茶盆黒堆黒、巻煙草入台付堆刻黒、状箱外革内黒、状箱内外黒	
	柳本市太郎	仙北郡生保内村生保内一一九	会席膳、硯箱、茶盆角形、四つ足膳、茶盆丸形、吸膳	

(別表2) 御所野家の帳簿から

【表紙】 下小阿仁村鎌沢八十九番地 []=破損 ■=判読不能
 下小阿仁村鎌沢 御処野氏
 地蔵袋
 【見返し】 昭和元年十一月四日
 鎌沢御処野亮三

日付		(円)	品物	数量		名
同	入	2.5	シツリバコ	1	ケ	鎌沢 加藤[]
[]	入	2.5	筒	1	本	タカノス町 長谷[]
8日	入	3.4	並	3	組	李岱 庄司店[]
17日	入	1	中	1	本	李岱 局[]
"	入	1.5	並	[]	ケ	[] 宇七
19日	入	2	シツリバコ	1	ケ	(加)藤理吉
		0.8	ドーラン中	1		李岱 成正
	入	3.5	上等	1	組	李岱 角五郎 馬車屋
9日	入	1.3	並	1	組	上杉 米[] 片一郎
2月2日	入	3	上硯			樺太豊原高等女学校 第三寄宿舎■田芳松
	入	0.5	筒寸コシライ			由利郡本荘石脇上町
8月	入	1.3	並	2	組	木 本城 金 ゴンタ郎
	入	2	マキタバコ入			茶屋
	入	1	葉タバコ入			杉山田 ■■
	入	1.5	並	1	組	上小阿仁村 小沢田
10月3日	入	2	並	2	組	阿仁合町
"	入	7	並			"
"	入	2	上	1	組	米内沢町
"	入	3	中	2	組	木村五十 [(二)]
11月[]		4	ヒキフタ	4	ケ	阿仁合町
		4	並	10	ケ	
		0.7	玉	14	ケ	
	入	1	ヒキフタ			ユーピン
	入	1	ヒキフタ			"
	入	1.3	ヒキフタ			芹沢酒屋
	入	1				三里 福岡小吉 []
10月		1.5	シキ■入			松岡四郎 []
	入	1.5	あかつ []			鈴木儀三郎
11月26日	入	9	上	3	組	三里 松橋八
	入	0.6	筒ツクバイ			加藤定之助 伊東土方
	入	4.5	上等			雪田 杉淵文郎
	入	2	中			三木田 三浦政吉
	入	1				加藤ヒコ蔵
		1	ヒキフタ			ユーピン
		9				木村
		5.5				市口
昭和13年1月より						
2月■日	入	3.5	シツリバコ			雪田 山岡太郎
27日	入	2	ヒキフタ			芹沢酒屋
27日	入	1	茶筒	1	本	"
	入	3	上	1	組	鈴木与一
	入	1	三里	1	ケ	福岡永吉
	入	1	仙北郡送り 七六	1	ケ	福田織之助
26日	入	5	並	5	組	米内沢市
"	入	1.2	並	3	ケ	木村五十二
	入	1	茶筒	1	本	半斤入 木戸石茶屋
28日	入	2				李岱 庄司店へ
27日	入	2				米内沢市 秀治へ
30日	入	1.5	シキ■入			杉山田 伊藤常治
"	入	0.5	ナオシ			タカノス町 高井
3月2日	入	7.2	上上			山形県鶴岡
"	入	6	上			青木させる店
"	入	4.8	中			
"	入	1.8	並			
3月16日	入	5.4	上上			三 一、八〇
	入	4.86	上			三 一、六二
	入	5.1	中			五 一、〇二
	入	1.8	並			三 六〇
	入	1.8	シキ■入中物			
3月22日	入	2.5				マト一沢大工
3月23日	入	2				仏社 政吉兄へ
4月5日	入	1.5	古筒一本並六ハケ上			三木田 カヤイ ハカゼ
4月2日	入	5	上	3	組	岩山万蔵
4日	入	6	シツリ箱	2	ケ	学校 藤島様[]北山様
		1.5	筒	1	本	伊藤重吉
		0.9	中	1	ケ	加藤長之
		1.5	高さ三寸五合 七寸	1	ケ	岩山万蔵
		3				三木田 三浦勇治
		5.3	並	5	組	五城目 佐々木治助
		60銭50銭				李岱 松岡四郎・リンヤ 古物ナオシヲ
		1	茶筒 四半斤入	1	本	高橋校長
	入	3	上	1	組	仙北郡神代村大字夏瀬
	入	1.5	筒	1	本	西松組太田木工部内鈴木礼吉
	入	1.8				雪田 伊東竹治ノ子供

日付		(円)	品物	数量		名
						十一堂 米内沢
	入	3.5				三木田 カヤデ
12月	入	2.5				雪田 山岡多一郎
95本 内タテ9本						
727枚						
昭和14年度						
1月18日	入	1.3	コシヤクハクシケル			
1月22日	入	1.4	茶筒	2	本	岸田
2月6日		3.2	並	2	組	福島県平市鎌田町44 上杉吉太郎
		3.5	上	1	組	福田与八郎
		6	タバコ入 スキヤン	2	組	
1月22日	入	6				米内沢 十一堂
1月22日	入	5.1				米内沢 木利店
		6	タバコ入 スキヤン	2	組	李岱 (庄司様) 岸田
		1.2	並	1	組	米内沢 十一堂
2月6日送り		3.2				福島県平市鎌田町44 上杉吉太郎
2月17日	入	3.6	並	3	組	米内沢町
"	入	2.2	上	1	組	木利様
"	入	2.5	マキタバコ入			加藤運七
3月15日	入	2.4	並	2	組	木村五十二
	入	1.2	バット入			杉瀬民吉
3月20日	入	1	タバコ入形	2	ケ	庄司様 李岱
	入	1.2	中	1	ケ	木村喜之助
3月22日	入	2.4	上	2	ケ	木村五十二
	入	2.5	中	1	組	成田易松
	入	0.5	ツクルへ			"
		1.5				鈴木礼吉大石
	入	1.5	中ノ上	1	組	群馬県野村町西谷木工部高橋様方大石蔵
	入	3.6				米内沢 木利店
4月12日	入	6				米内沢 十一堂
		2	並 ヒキフタ タバコ入			高橋様へ 土城松橋先生へ
	入	1				三木田 相馬易透
4月22日	入	1				米内沢町 近藤勇吉
"	入	2.4				米内沢町 木村五十二
"	入	0.8				土城行 加藤勇吉
"	入	0.5				土城 松橋先生
4月24日	入	1.7	並	1	組	山岡三蔵
4月22日	入	1.5	ヒキフタ			加藤久米治
	入	1.5				杉山田 杉瀬民吉
5月2日	入	4.1				米内沢町 十一堂
2日	入	2.6				木村五十二
	入	3	タバコ入 スキヤン			ノ木 楽屋
	入	3				福田乙吉
	入	2	ヒキフタ			杉山田 伊藤常治
		4				仁田ノ目 多一郎
	入	5	シツリバコ			かなき
	入	4.5	ヒキフタ			かなき
	入	1.5				米内沢 松橋重吉
	入	4				マトノ沢 大工
	入	1.2		1	ケ	加藤宇吉
		14		4	組	山形 加藤久米治
		5				長信田 武石普五郎
	入	5				川井行ニテ 加藤定之助
	入	0.8				羽立 菅原伸一郎
	入	1.5				三木田 三浦長次郎
	入	4.5				鎌沢 加藤貞一郎
	入	3	中	3	ケ	阿仁合町 米沢春吉
	入	3.6	中	2	本	"
	入	5	シツリバコ	1	ケ	上大野村上杉学校本間先生
	入	3.5	スキヤン タバコ入			タカノス町 楽屋カメ売
	入	4	並	2	組	三里 石上永助
	入	3				加藤運七
	入	3				沖田面
	入	3				小沢田
	入	3.2				南沢工場内
	入	4	並	2	組	山形県鶴岡市ニテ
	入	2.5	中	1	組	阿仁合町 米沢春吉
12月		3	上	1	組	鈴木儀三郎
	入	1.5	ヒキフタ	1	ケ	李岱 平川
昭和15年度						
1月2日	入	2				米内沢電話工へ

日付		(円)	品物	数量		名
	入	3.5				鈴木儀三郎
	入	3				鈴木利市兄へ
	入	2				雪田工場へ
12日	入	6				米内沢町十一堂へ
〃	入	2.5				米内沢町 木村五十二
12日	入	3	シデッキ	1	本	福田富松
	入	2.5	ヒキダン2ケ付	1	ケ	加藤貞一郎
	入	2.5	アカツキ入	1	ケ	加藤貞一郎
	入	1.5	中	1	ケ	鈴木清治ムコ
1月25日	入	2.5	中	1	組	加藤貞一郎 十二所町小学校内坂井与市
2月	入	2.5				十二所町 桜井与市
	入	8	並	4	組	木村五十二
	入	6	上	2	組	〃
	入	5				大内沢 成田鶴治
	入	5				福田芳蔵
2月27日	入	3.5	マキタバコ入			加藤力弥
出ス	入	3	中	1	組	松橋茂吉
2月5日	入	5.5				三里 松橋ヤマン
2月6日	入	5	上等	1	組	鎌沢 本間四郎兵衛
	入	3				十二所町 桜井与市
3月22日	入	2.5				〃
	入	3.5				三里 松八吉弥
	入	4	筒	1	本	コジキ 馬祭り
	入	2.7	中			福島県平市鎌田町44
	入	2.2	並			上杉吉太郎
	入	2	上筒	1	本	〃
4月11日	入	4	オホン	2	枚	杉瀬好男
4月12日	入	5	ドーラン	1	組	学校より高橋校長へ
	入	20	ドーラン巻煙草入	1	組	鈴木利三郎
	入	10	ドーラン	1	組	小沢田
	入	3	ドーラン	1	ケ	長之
	入	11	ドーラン	1	組	加藤
	入	12	ドーラン	1	組	三木田
	入	15	巻煙草入			長治
	入	10	巻煙草入			何田
	入	8	ハット煙草入			何田
	入	10	ドーラン			李岱
	入	15	煙草入形			李岱
	入	12	ドーラン	1	組	上大野駅長
	入	10	ドーラン	1	組	牧浦
	入	7.5	筒	1	本	三里 喜三郎
昭和21年度残り品						
	入	350				山岡春治
	入	350				鈴木政之助
	入	220				大内沢馬八
	入	920				
	入	930	計1850円			
	入	150	筒大	1	本	米倉 宇一郎
	入	250		1	組	〃 土城行
	入	130	上等筒	1	本	加藤貞一郎
昭和22年度1月ヨリ仕上り						
1月3日	入	250		1	組	杉山田 伊藤桂助
	入	400		1	組	二ツ井 成田由五郎
1月15日	入	600		2	組	三里 松橋長太郎
1月13日	入	500		2	組	杉山田三木田 受取 使三郎
19日	入	250		1	組	雪田土場内ダンナ 使政之助
1月15日	入	400		1	組	阿仁合行 加藤千代治
	入	120	ヤメ	1	組	三木田土場
31日	入	70		1	ケ	三里 松橋吉之助
2月18日	入	400	ドーラン			李岱 亀
	入		タバコ入形			李岱 成田専太郎
1月21日	入	150				鈴木 政之助
2月26日	入	350				沢羽立 藤岡勝蔵
27日	入	500		2	組	三木田 三浦三太郎
	入	200				鎌沢 加藤
	入	200				花岡 イナリ沢 長木由雄
	入	250				三木田 三浦三太郎
	入	330				新田目 太一郎
	入	400	上			李岱局長
3月1日	入	200	上等			三里 福岡喜三郎
	入					鈴木政之助
3月1日	入	150				杉山田 ■■■■■■
3月3日	入	300				雪田沢行 タンナ
4月1日	入	400		2	組	雪田 山岡勇吉 三月末日まで
	入					鎌沢 鈴木市蔵
4月6日	入	200				鎌沢 御所野太助
3月7日	入	800		2	組	〃 岸田金兵衛
3月7日	入			1	組	三里 松橋
3月1日	入	150		1	組	李岱 局
3月末日	入	200				〃 局武田

日付		(円)	品物	数量		名
	入	30				雪田 山岡多郎
3月7日	入	30				天神 土場
3月5日	入	20				三木田 三浦勘助
3月末日	入	380				三木田 三浦勝三郎
	入	230				三木田
	入	330	上	1	組	三木田 三浦乙之助兄
4月10日	入	220	中	1	組	三木田 三浦直治
4月25日	入	1200		4	組	天神 土場行
4月1日	入	150				李岱局 武田 女人
4月3日	入	150				李岱局 桜田
	入	150	タバコ入形	1	ケ	李岱局 ナラ
4月7日	入	100				羽立 武石キンキョヤ
4月25日	入	200				福田由蔵
	入	230	中	1	組	二ツ井ノ人
	入	430	上等	1	組	岸田金兵衛
	入	350				三浦■■代行
2月末日	入	600				
2月末日	入	100	キンシ入			湊乙治
5月1日	入	250	中	1	組	天神行 伊藤米松
5月8日	入	150				米内沢行 福田孝蔵
	入					田代行鈴木
4月26日	入	400				元 雪田 原太助
	入	370	タバコ入形	2	組	局 ナラ 女人
6月5日	入	300				杉山田伊藤
6月5日	入	600				天神土場行
6月31日	入	300				天神行 御処野太助
	入	400				松橋長太郎
田ウイシギ 7月21日より						
	入	30	ツクハイ			杉山田 伊藤米松
	入	300				杉山田 伊藤常吉
	入	250				ノシロ 佐々木重助
	入	500				本成 秋本
	入	400				沖田面 高橋徳次郎
	入	350				李岱 カズヤ
	入	15				局長
	入	15				〃
	入	30				三里
	入	30				三木田
	入	70				雪田 土場
	入	10				伊藤
	入	500				加藤■■ズオ
	入	500		1	組	上杉
	入	600		1	組	三里 松橋長太郎
	入	700		2	組	天神 土場行
	入	500		1	組	〃
	入	350				加藤兵衛
	入	350				御所野五郎
	入	1100		2	組	雪田 土場
	入	350		1	組	伊藤米松
	入					松田為治 何井行
8月17日	入	200				李岱 成田長四郎
	入	150				加藤
	入	500				御所野タクズ
	入	550				三木田 三浦勘三郎
	入	650				〃 〃
	入	500				上杉 引田力一郎
	入	380				加藤徳雄
	入	700				桜助
	入	700				兵治
	入	40				李岱 局長
	入					〃
	入	24055円				
昭和23年1月ヨリ						
1月12日	入	500	キカバ			杉山田 伊東道雄
2月20日	入	1100	副野心(蔵)持運			芹沢
30日	入	900		2	組	雪田土場内
2月12日	入	450				上五反沢
1月31日	入	500				本城 鈴木兵之助
1月23日	入	450				李岱 成田米治
	入	750	上	1	組	三里 松岡
2月2日	入	750	上(心)持運			芹沢 キー一郎
2月9日	入	400	並	1	組	田中与七
	入	500				鈴木勝司
3月15日	入	450				山岡勇助
14日	入	30				伊藤米松
14日	入	20				沢 羽立
19日	入	350				加藤キ一郎
〃	入	10				福岡佐五郎
	入	30				根田 金田十右衛門
22日	入	500	フシカバ			伊藤開二郎
	入	300				李岱 部長殿へ

日付		(円)	品物	数量		名
	入	3300		6	組	五反沢 石川
	入	3300		6	組	五反沢 石川
	入	1400		2	組	二ツ井
	入	1000	タバコ入形			菊太郎
	入	300	キンシ入			
	入	700				下枝 桜井
			大1ケ小1ケ			李岱 茶 局
4月3日	入	250				雪田土場 木村
	入	450				田中与七
4月28日	入	650				山梨県 金田直太郎
4月11日	入	250	ドーラン	1	ケ	米内沢 トコヤ
4月11日	入	500				二ツ井
4月13日	入	50				沢羽立 藤岡
4月13日		30				米内沢 大倉定治
	入	650				山岡勇助
5月25日	入	800	タバコ入形			トコヤ
5月25日	入	1800		3	組	〃
7月9日	入	700				休み 山岡太郎
	入	900				二ツ井
7月31日	入	650				大内沢 成田慶二
	入	900				二ツ井行
25日	入	300				加藤理吉
7月14日	入	550				五城目 オけヤ
旧オボまで	入	800		1	組	上小阿仁村 杉花行
8月23日	入	1200		2	組	山岡勇助
	入	600		1	組	御所野太助ムコ
	入	1000	ヌキサシ			新田目 斎藤慶助
	入	50	ツクルへ			鈴木勝司
8月1日	入	2500		5	組	トコヤ
8月14日	入	1000				雪田 文之助
	入	1000				二ツ井行
8月3日	入	800	タバコ入	1	組	御処野 菊太郎
	入	50				鈴木政之助
8月30日	入	650				福田定五郎
9月5日	入	650				根田の人ノ分 福田定五郎 50円多く
	入	1000				本城 秋本
	入	1000				新田目
9月	入	50	ツクルへ			大内沢 馬八
	入	50				福田与■郎
	入	20				羽立
	入	20				三木田 土場
	入	1200				三浦
	入	600				伊藤常五郎
	入	350				伊藤ゴンタロン(オンジ)
	入	20				李代福田
	入	5000				大館鈴木
	入	1100				三浦 阿仁合行
	入	700				羽立 小坂
	入	800				〃 〃
	入	1000				長太郎
	入	1000				杉花
	入	1200				二ツ井
	入	800				御所野清吉
	入	200				伊蔵米松
	入	1000				松橋長太郎
	入	500				楽屋
1月28日	入	1200				
	入	900				木花
	入	1000				鈴木イト
	入	1300				小矢田コーシロ
	入	1000				大阿仁村中村校内鈴木市郎
	入	400				
	入	1200				上大野タバコ先生
2月3日	入	300		1	ケ	太助
	入	1100				大阿仁村中村校内鈴木市郎
2月3日	入	1000		1	組	
	入	2750		5	組	トコヤ
	入	850				雪田 山岡勇助
	入	400				金森イシヤ
	入	350				福山与右衛門
	入	950				雪田 山岡勇助
	入	8300				トコヤ前田行15
	入	3250				タシロ
	入	1000				上杉セーマイ
	入	650	並			沢田石長五郎
	入	1000	タバコ入形	3	組	平川 文治
	入	1100				小沢田 ラズオヤ
	入	1000				三木田 三浦
	入	800				福田
	入					文治
	入	650				伊藤

日付		(円)	品物	数量		名
		800	ツ木皮代			
		700	乃木モト代			
		700	ツキ成八木ツツ			
		1300				沖田面
8月2日	入	300	トーラン	1	ケ	伊藤米松
	入	80	ツクルへ			福田由蔵
	入	350				杉瀬マゴ吉
	入	600				御所野菊太郎
	入	1200				桜田徳太郎
	入	1000				御所野菊太郎
1月より						
		500				
		500				
20日		700				
1月22日		200				
1月27日		700				
2月4日		100				
2月23日		600				
3月23日		1500				
湊乙治分		10000				
8月		1000				イト 米代へ払
8月30日		300				正金ニテ本人払
柳田 伊藤太助分						
4月17日		25				キカケ代ニテ文之助へ払